

令和6年
2024年

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1 友引 八朔 一粒万倍日 とり	2 先負 いぬ	3 仏滅 い
4 先勝 ね	5 友引 土用の丑 うし	6 先負 とら	7 仏滅 立秋 う	8 大安 たつ	9 赤口 み	10 先勝 うま
11 友引 山の日 ひつじ	12 先負 休日 さる	13 仏滅 とり	14 大安 いぬ	15 赤口 三りんぼう い	16 先勝 一粒万倍日 ね	17 友引 うし
18 先負 とら	19 仏滅 う	20 大安 たつ	21 赤口 み	22 先勝 処暑 うま	23 友引 ひつじ	24 先負 さる
25 仏滅 とり	26 大安 いぬ	27 赤口 三りんぼう い	28 先勝 一粒万倍日 ね	29 友引 うし	30 先負 とら	31 仏滅 二百十日 う

葉月

〔はづき〕 令和6年8月

「月見草」「観月」「桂月」とも言われ、古くから月に生えていると信じられていた桂の葉の月という意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

人は城、人は石垣、人は濠

武田信玄・甲陽軍鑑

今月のことば

人は城、人は石垣、人は濠

武田信玄・甲陽軍鑑

物質は尊いが、それ以上に尊いものは人である。優れた武将として尊ばれたのは、領下の住民をこよなく愛したからである。

甲斐の国は四方が山岳に囲まれた自然の要塞で、天然の城に囲まれたところである。しかし、信玄はそれを頼みとせず、甲斐の住民こそ、敵を防ぐ城であり、石垣であり、濠であると考えた。社会を守り、国を守るのも、人以外にないとするば、平常から人心を収攬しておく以外に、よい方法があるのか。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

八朔 田の実りの節供

八朔とは八月朔日の略で、旧暦の八月一日です。この頃、早稲の穂が実るので、農家の間で初穂を恩人などに贈る風習が古くからありました。このことから、「田の実りの節供」とも言われ、この「たのみ」を「頼み」にかけて、武家や公家の間でも、日頃お世話になっていた人(頼み合っている)に、その恩を感謝する意味で贈り物をするようになりました。

盆踊 盆に戻った祖霊への供養

お盆の時期になると全国の至る所で盆踊りが行われます。もともとは、年に一度、文字通りお盆のときに、この世に戻ってきた祖霊を供養するために踊ることを意味します。

「盆踊り」は、古代日本で神様が降りてきたところを中心に、輪を作って踊ったなごりと言われていたのですが、鎌倉時代、時宗の開祖・一遍上人が広めた念仏踊りのように列を組んで歩きながら踊る「行列踊り」などもあります。その代表的なものが「阿波踊り」です。



盆踊り歌とは？

ふるさとの盆踊り歌には、その土地に長い間歌い継がれたものが多くあります。その歌は、本来は盆を迎えた祖霊を慰め、またこれを送るためであったと考えられますが、今はその趣旨は精霊踊りや念仏踊りの歌にしか残っていません。多くは庶民の娯楽化した歌詞や、口説きの類で、踊る者と歌う者との交歓のためのものになっています。

歌舞は、元々鎮魂のための作法でした。盆踊りの輪踊りの形は櫓を中心としていますので、神楽や巫女舞の輪踊する所作と同じようなものといえると思います。盆踊りの人たちが恍惚となっていく態が示されています。

今の盆踊りは拡声器やテープの音量を上げて歌いますが、昔は野良や山で鍛えた野太い、よく透る声で歌われたと思います。その肉声こそが、ふるさとの『祭り広場』たる盆踊りの踊り手らの胸に沁み透ったに違いありません。

けんじんふばつ 堅忍不拔

意志が強く、つらいことでもじっと耐え忍んで心を動かさなことです。



参考文献 『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

「暑中見舞い」贈答の習慣が簡略化

暑中見舞いはもともとお盆の贈答の習慣が簡略化されたものです。かつては、お盆に里帰りする際、祖先の霊に捧げるための物品を持参する習慣がありました。それが、しだいに世話になつた人全般への贈答の習慣になっていきました。

その際、本来は直接訪問して届けるのが一般的でしたが、やがて簡略化され、手紙ですませるようになったのが、現在の暑中見舞いです。

暑中見舞いは、二十四節気の小暑(七月六日)から立秋(八月七日)にかけて送るのが通例で、立秋を過ぎたら「残暑見舞い」とします。ちなみに、お盆の贈答の習慣は、お中元へと受け継がれています。

七十二候《8月》

処暑

初候・綿村開(わたのはなしへひらく) 綿の実を包む花の蕾(か)が開き始める
次候・天地始肅(てんちはじめじやく) ようやく暑さが弱まら始める
末候・禾乃登(こむぎのなる) 日ごとに稲穂の先が重くなる

立秋

初候・涼風至(すずかぜいたる) 秋の涼しい風が変わり始める
次候・寒蟬鳴(ひんがしな) 夏の終わりを告げる蝉の鳴き声はなくなる
末候・蒙霧昇降(もくうしょうかう) 深い霧がたちこめる

※七十二候とは二十四節気の各節気を3日ごとの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

安産祈願 8月の戌の日

2日(金)・14日(水)
26日(月)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《11日 山の日》

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう